



議会だより

# わどまり



第171号



左の三次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、町議会のホームページにリンクします。

## CONTENTS

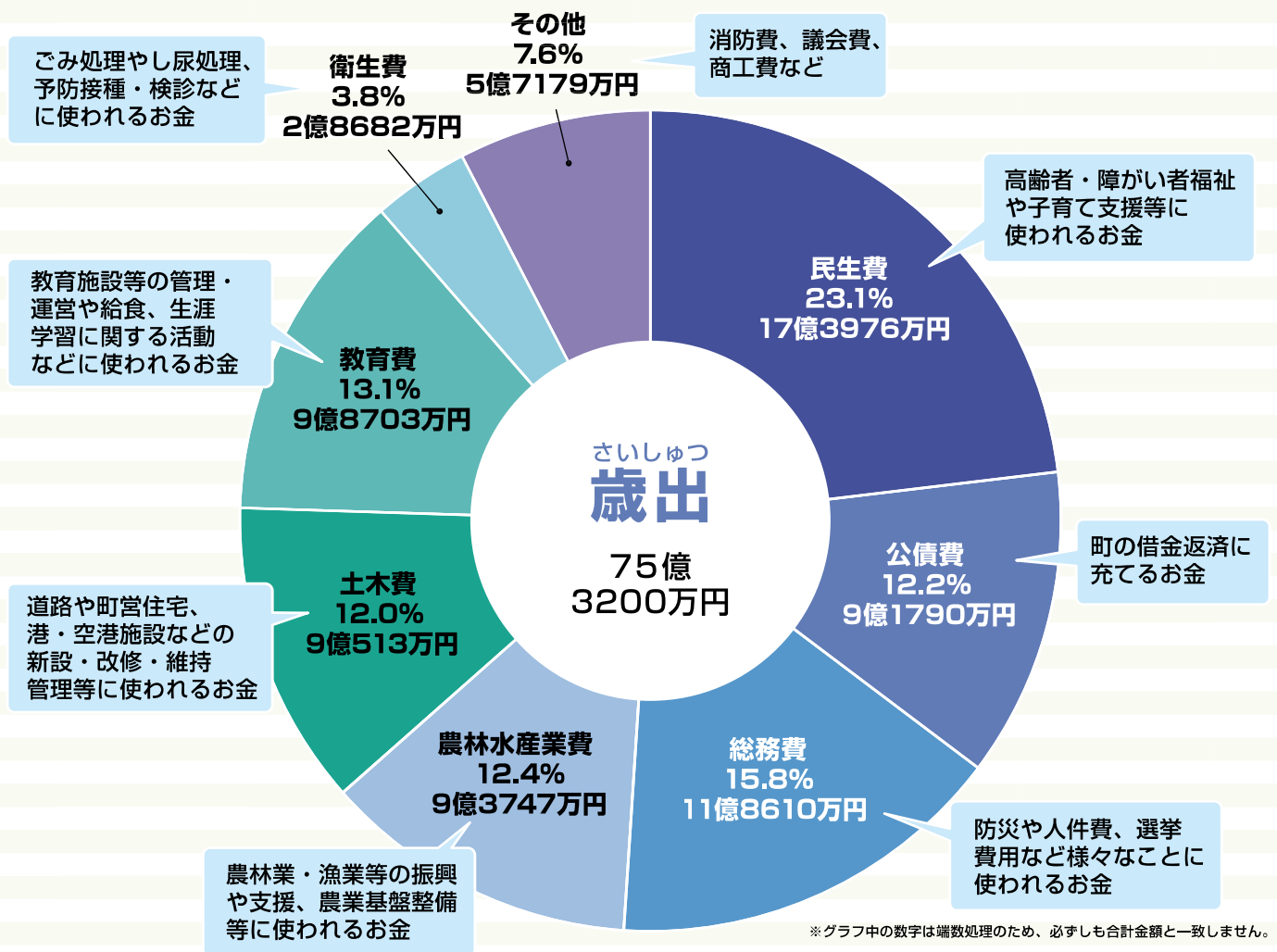
令和8年度 当初予算	2P
こんなことが決まりました	4P
令和8年度 重点新規事業	6P
10名の議員が町政を問う	7P
委員会活動報告	16P
編集後記	18P

# 予 算 編 成

令和8年  
第1回 定例会  
3月3日▶13日

## 一般会計(歳出・歳入)

75億3200万円【前年度対比4億4500万円 **減額**】



### 令和8年度特別会計等予算額(下水道事業・水道事業会計の基本的事業は除く)

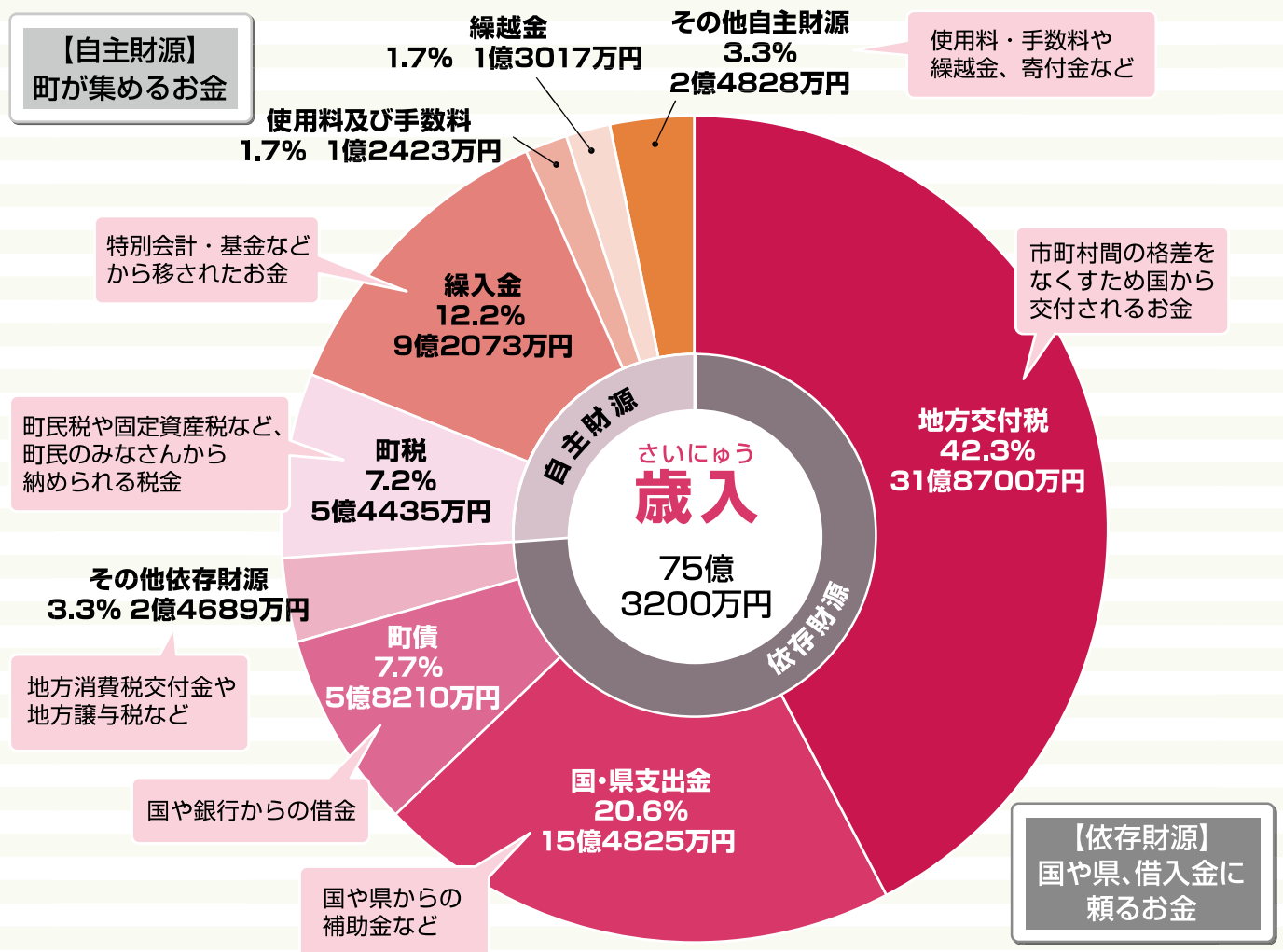
項目	今年度	前年度比
国民健康保険特別会計	10億3945万円	949万円 (減)
介護保険特別会計	9億4189万円	1432万円 (増)
後期高齢者医療特別会計	1億3453万円	2432万円 (増)
奨学資金特別会計	1244万円	561万円 (増)
下水道事業会計(収益的事業)	4億2393万円	731万円 (減)
水道事業会計(収益的事業)	1億9858万円	2262万円 (減)



# 令和8年度 当初予算

# 当初

## 第6次総合振興計画の推進 グリーン成長戦略の推進



**一般会計当初予算の推移**

R8年度	75億3200万円
R7年度	79億7700万円
R6年度	69億円
R5年度	63億5000万円
R4年度	63億円
R3年度	63億4898万円
R2年度	61億9525万円



令和8年 第1回 定例会(3月3日~13日)

Table with columns: 議案番号, 件名, 議員名 (議席番号順), 議事結果. Includes a legend for symbols and a list of 42 items with their respective voting results.

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決（賛成・反対の意思表示）権はありません。

# 令和8年度 重点新規事業一覧

(単位:千円)

番号	事業名	担当課	事業費
1	介護人材確保育成支援事業	保健福祉課	3,000
<p>●介護サービス事業所に従事する人材の確保及び定着に向けた資格取得等に対する費用の補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員実務者研修・・・補助率9割／補助上限100,000円</li> <li>・介護福祉士実習指導者講習・・・補助率9割／補助上限50,000円</li> <li>・介護福祉士試験・・・補助率9割／補助上限35,000円</li> </ul> <p>※その他補助対象研修・試験あり</p>			
2	陸上養殖実証支援事業	経済課	3,000
<p>●陸上養殖のスタートアップ及び実証支援に対する補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の取り組みに対し、予算の範囲内にて経費の2分の1以内を補助</li> <li>①陸上養殖資材の導入(ビニールハウス・水槽・ポンプ・配合飼料等)</li> <li>②養殖種苗の導入(魚類・貝類・藻類等)</li> </ul> <p>※補助対象となる養殖形態は、閉鎖循環型陸上養殖・半閉鎖循環型陸上養殖及びかけ流し式陸上養殖のいずれかとする。</p> <p>※②については、①の取り組みを行う場合に限る。</p>			
<b>事業費合計</b>			<b>6,000</b>



## 第77回鹿児島県町村議会議長会定期総会

2月17日、マリnpalesかごしま(鹿児島市)に於いて、鹿児島県町村議会議長会第77回定期総会が開催され、自治功労者の表彰・令和8年度事業計画及び予算等の審議が行われました。

### 自治功労者表彰

○正副議長として10年以上在職した者

議長 **永野 利則**



# ココが聞きたい 一般質問 町政を問う!!

令和8年第1回  
議会定例会

きい かずお  
・喜井 和夫 議員  
農業振興と環境整備を .....P7

かつら ひろかず  
・桂 弘一 議員  
地域資源としての文化財を活かそう .....P8

なかだ たかひろ  
・中田 隆洋 議員  
将来世代に誇れる産業基盤の確立を .....P9

いちき むつく  
・市来 武次 議員  
空き家活用とUターン人材の可能性 .....P10

やまくち あすか  
・山口 明日香 議員  
誰もが安心、未来へ誇れる町へ .....P11

いけだ しょういち  
・池田 正一 議員  
美しい景観を永遠に .....P12

かわま てつし  
・川間 哲志 議員  
当初予算からみる和泊町の未来 .....P13

しまだ ひろき  
・島田 浩樹 議員  
産業発展・児童生徒への支援強化 .....P14

なかむら こ  
・中村 むつ子 議員  
町民が知って選択できる情報提供を .....P15

ひがし ひろあき  
・東 弘明 議員  
町民に優しい窓口サービスを .....P16

## 一般質問とは??

議員が町の行財政全般について、事務・予算等の執行状況や、今後の考え・方針を聞き、疑問点を質すこと。



## 農業振興と環境整備を



きい かずお  
喜井 和夫 議員

### し尿処理施設

**問** 処理水の処理方法は。

**答** 現在は、汲み取りで集まったし尿等に合併処理浄化槽の汚泥等を混入し、処理を行っていることから、液肥としての成分が減少し、農家需要が激減している状況。

新たな処理方式を検討し、し尿処理に関する一般廃棄物処理計画等の見直しや新たな施設の建設に向けて方針を決定したい。

**問** 公共下水道施設への投入は。

**答** 放流水の水質が国の定める基準値を超えてしまふ恐れがあるため、公共下水道施設及び農業集落排水施設への投入はできない。



### 冷蔵施設の整備

**問** バレイショ種子の保管施設として冷蔵施設整備は。

**答** ばれいしょの種子不足・種子の高騰については、大きな課題であり、冷蔵施設の整備は離島農業における安定した生産量の確保と安定出荷のため、重要な基盤であると認識している。

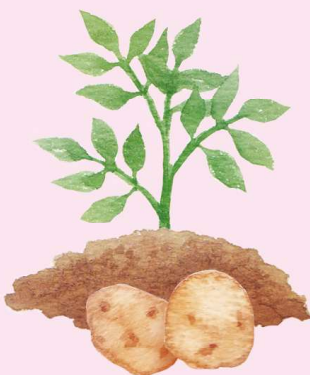
奄美農業創出緊急支援事業など補助事業の活用可能性を調査、規模や場所等の選択肢を検討し、生産者や関係機関と協議を重ね、将来の生産・流通の姿を見きわめながら、整備方針を取りまとめ取り組

### 台風時の食料保管場所

**問** 台風時の食料保管場所として施設整備は。

**答** 施設整備は、事業者等からの要望を踏まえつつ設置に向けた可能性の検討が必要。

保管場所を求めている事業者の数等の把握や、施設の必要性を十分に検討すべきだと考えている。



地域資源としての文化財を活かそう



かつら ひろかず  
桂 弘一 議員

文化財の調査・修復・復元・保護・活用

**問** 国指定に向けた内城泉川古墳群3号墓が、リスト

外になったのは何故か。

**答**

当初、世之主の墓・チュラドゥール・内城泉川古墓群3号墓の3件を指定候補として調査し、いずれも文化財として同等の価値があるとの評価を受けている。

しかしながら、国指定にあたっては、土地所有者及び占有者の同意が必要であることから、同意が得られた世之主の墓1件について意見具申を行った。

今後、地権者の整理及び同意取得が整い次第、追加指定に向けた手続きを進めていく。

**問** 世之主の墓の石積み修復の計画は。

**答** 令和8年度に、知名町教育委員会と連携し、

文化財保護法に基づく、沖永良部島古墓群についての「保存活用計画」の策定に向けた検討を行う。早ければ令和9年度から、有識者会議等での議論やパブリックコメント等を実施し、2カ年程度かけて「保存活用計画」を策定する。

石積みの崩落箇所については、当面は見学者の安全確保に努めながら、策定する「保存活用計画」の中で優先順位等を整理し、計画的に修復を実施していく。

また、石積み修復や活用に向けた史跡整備にあたっては、文化庁国庫補助事業の活用を図るなど、財源確保に努める。

**問** 世之主の城跡・後蘭孫八の城跡の調査計画は。

**答** 今年度、令和8年度以降の城郭遺跡調査に向

けた検討を行い、同事業について、令和8年度文化庁国庫補助事業の申請を行った。

令和8年度より、城郭遺跡の調査を開始する。

有識者からも中世琉球のグスクの北限に位置付けられる重要遺跡との評価を受けていること、また、現在大学考古学研究室から調査協力の申し出をいただいていることから、まず後蘭孫八の城跡を優先して調査を実施する。

城郭遺跡の調査は、測量・発掘・整理・報告書作成まで長期間を要するため、令和8

年度から13年度までの6カ年計画で実施する予定。

その後、世之主の城跡調査へ着手する計画としている。本町の貴重な歴史文化遺産を次世代へ確実に継承できるように、計画的に取り組んでいく。



▲チュラドゥールの石積み

将来世代に誇れる産業基盤の確立を



なかだ たかひろ 中田 隆洋 議員

農地集約化の推進

**問** 農地集約化を推進するうえで、現状と課題は。

**答** 地域集積協力金事業を実施した15地区における農地の集約化率は平均9.12%。

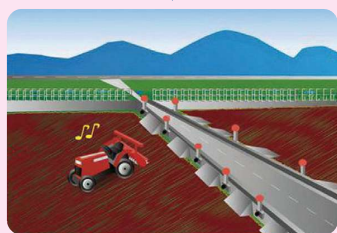
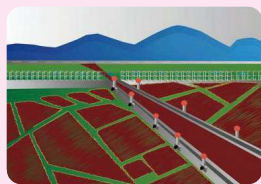
農地集約化の進め方は、農地の売買や交換、農地バンクを活用した貸借権の設定などがある。

一方で、先祖代々の農地を手放しにくい心理や所有権の細分化・相続未登記農地の存在により権利時間を要すること、また複合経営による作物条件の違いから、農地交換や団地化が進みにくいこと

などが課題。

**問** 人口減少下において、農業生産高の維持と今後どのように農地集約化を推進し、担い手確保や後継者育成に運動させていくか。

**答** 令和6年度に策定した地域計画を毎年見直し、耕作者の減少により空いた農地を担い手へあっせんするなど、関係機関と連携しながら担い手確保と農地の集約化を進める。



▲集約化された農地

担い手不足対策

**問** 本町における産業別(農業・漁業・建設業等)の担い手の現状と課題は。

**答** 農業は従事者の減少と高齢化により担い手不足が進行している。漁業は素潜り漁業で増加が見られる一方、ソデイカやマグロ漁船の後継者が少ない状況。

建設業も多くの事業者が担い手不足を感じ、応援体制や受注調整で対応している。担い手不足は少子高齢化や若年層流出による生産年齢人口の減少が背景にあり、本町産業の縮小が懸念される重要課題。

対策として、来年度はスキマ時間で働けるマッチングプラットフォームの導入を検討している。

**問** 新規就業者確保に向けた具体的施策(移住促進、

研修制度、特定技能外国人材の活用等)の取り組み状況は。

**答** 移住相談員の配置やオンライン相談、体験住宅の活用により移住促進を図っている。

また、えらぶ島づくり事業協同組合による外国人材の受け入れや生活・就労支援を行い、新規就業者の確保に取り組んでいる。

**問** 若手人材の定着に向けた所得向上策や住宅支援策の考え方は。

**答** 若手人材の定着には所得向上が重要であり、本町は県内でも比較的高い所得水準を維持している。

水産分野ではスマート水産業や陸上養殖を進め、労力軽減と経営安定を図る。

建設業についても労働環境の改善や魅力発信を官民連携で進め、担い手確保に努める。

空き家活用とUターン人材の可能性



いちき むつく 市来 武次 議員

移住・定住施策

問 移住・定住を促進する取り組みは。また、その成果と課題は。

答 本町の移住・定住促進に関する取り組みと成果については、企画課に移住定住相談員を配置し、移住希望者の相談窓口として対応している。今年度の相談件数は約70名であり、若い世代から高齢の方まで、幅広い年齢層の方々からご相談をいただいている。

また、体験住宅を6棟運用しており、今年度までに51組が利用され、そのうち約半数の方が島内に定住するな

ど、一定の成果がある。

さらに、空き家バンクの運用にも取り組んでおり、賃貸物件や売地を合わせて約20件を掲載している。今年度は19件の空き家が成約に至っており、空き家の流通促進に寄与している。

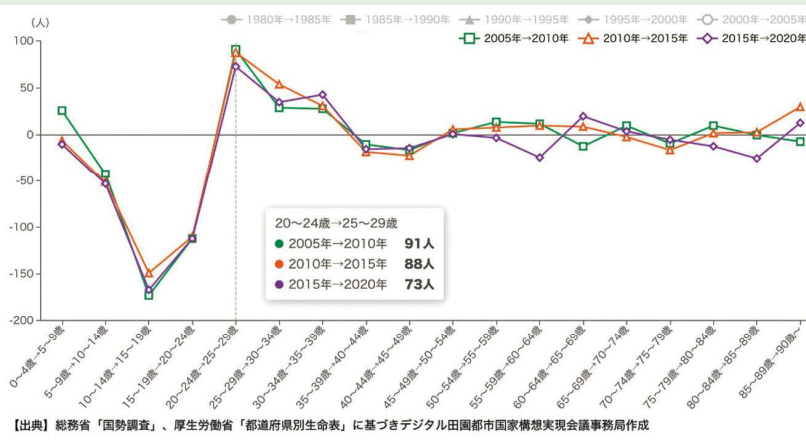
課題としては、体験住宅の運用において、入居申込書の受付期間を限定しているため、「応募したい時期に応募できない」という希望者が生じていることや、入居者がいないにもかかわらず管理費等の経費のみが発生するケースなどがある。

問 これまでの取り組みと成果、課題を踏まえ今後どのように取り組んで行くのか。

答 課題を踏まえた今後の取り組みとしては、年間を通して入居申込書を受理

できる体制へと見直すことで、より多くの移住希望者から申込を受け付けられるようにしていきたいと考えている。これにより、体験住宅の利用希望者を取りこぼすことなく受け入れることが可能となり、あわせて管理費等に対する費用対効果の向上も期待できるものと考えている。

年齢階級別純移動数の時系列分析 (鹿児島県和泊町)



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

空き家対策

問 空き家活用状況とその課題、今後の取り組みは。

答 空き家活用促進事業を実施し、毎年2・3件の民間空き家が活用されている。その他、利用されなくなった教職員住宅を改修し、移住体験住宅や子育て世帯向け住宅として整備している。

課題としては、家財道具や仏壇等が残っていることや、お盆正月に一時帰省するため人に貸すことが出来ないといった事例が多くあるので、そういった住宅の流通が活発になるような対策の検討が必要である。

今後も、空き家所有者への利活用への啓発を行い、空き家の流通を促進するとともに、利用されていない公有住宅を改修し、空き家数の減少及び住宅不足の解消に努めていきたい。

誰もが安心、未来へ誇れる町へ



やまぐち あすか  
山口 明日香 議員

学校給食

**問** 地産地消の状況と町内産食材の使用状況は。

**答** 令和6年度の実績で島内産を100%使用している食材は、生きくらげ・しまかまぼこ・島魚となっている。また、じゃがいもやかぼちゃも町内産を活用している。  
しかしながら、販売業者の廃業や撤退、生産者の高齢化や不作などにより、町内産食材の確保は年々厳しくなっている。

**問** 有機農産物や減農薬栽培農産物の学校給食における活用状況と今後の導入は。

**答** 給食センターにおいて、有機農産物の導入実績はない。  
町内に有機JAS認証を受けた納入事業者はいない。有機農産物は、生産面でのハードルが高く、現時点での導入は困難な状況にある。減農薬栽培農産物については、地元生産者の取組状況、価格や安定供給の確保、安全性等を総合的に勘案し、導入の可能性を検討していきたい。



聴覚・視覚障がい者支援

**問** 支援体制の現状は。

**答** 第7期障害者福祉計画及び第3期障害児福祉計画を策定し、計画に基づき同行援護支援や行動援護支援、補装具の支給、身体障害者福祉協会等への協力を実施。また、コミュニケーションの理解を目的とした手話講座を開催し、窓口業務の充実を図っている。

**問** 町主催行事や説明会、災害時における情報保障の取り組み状況は。

**答** 防災行政無線や町ホームページ、公式LINE等を活用し情報を発信。また、民生委員・児童委員

や自治会、自主防災組織と連携し、避難行動要支援者名簿を整備、平常時から関係機関と情報共有を行うことで、迅速な災害体制支援を推進。

町主催行事では、障害の特性に応じた対策等が未対策で、手話通訳者や要約筆記者の確保体制など、情報保障の強化が必要と認識しており、障害のある方が社会活動へ参加しやすい環境づくりに取り組む。

**問** 県の手話言語条例を踏まえた、本町の具体的な取り組みは。

**答** 手話講座や普及啓発活動を通し、手話を使用しやすい環境整備に努め、手話言語条例にある、手話の普及等に関する施策の推進を県や関係機関等と連携し行う。

**問** 手話言語条例の制定や、それに準じた方針の検討は。

**答** 障害福祉計画に基づく施策の成果や課題を検証し、手話言語条例制定の必要性を検討する。

美しい景観を永遠に



池田 正一 議員  
いけだ しょういち

国立公園内観光ルート

**問** 国立公園内にある海岸等の名称を記した看板設置は出来ないか。

**答** 国立公園について定める自然公園法においては、「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする」とされている。

国立公園内にある海岸等の名称については、シャーンビーチ・フーチャ等の景観を楽しむことができる主要



▲フーチャに設置してある看板

な場所については、観光道標の設置によって、順路や位置の把握が可能となっている。国立公園地内におけるその他の海岸等への案内板の設置については、自然風景との調和を図りながら、国立公園に必要な工作物であるのか等、国や県への相談及び設置許可申請等の手続きを行っていくことが必要となる。

引き続き、自然公園法に基づき国や県と連携して国立公園の適正な管理を行い、沖永

良部島の豊かな自然及び景観を守りながら、その魅力を観光客や地元住民等、より多くの方に楽しんでもいただけるよう取り組んでいく。

**問** 国立公園指定の国頭字海岸線沿いにある危険廃屋を今後どのようにするのか。

**答** 所有者に対し、危険性の排除を求めているが、対応していただけていない状況にある。

弁護士相談等を実施し、問題解決に向けて成年後見人申立てを行ったが、成年後見人の選定が厳しい状況にある。

このことから、現在は、飛散の恐れのある建築資材等の撤去ができないか検討をしている。

今後も、関係者と協議を重ね、危険性の排除に努めていきたいと考えている。



▲国頭字海岸線沿いの通行止めの箇所



▲国頭字海岸線沿いの廃屋

当初予算からみる和泊町の未来



かわま 川問 てつし 議員

当初予算

問 人口減少対策として予算編成は。

答 【民生費】 出産祝い金や乳児用品購入助成事業等、ことごと政策に関する経費等。

【衛生費】 出産環境支援事業や産科医療体制確保支援事業に関する経費等。

【土木費】 町営住宅等の居住環境の整備や空き家の利活用促進及び地域活性化に関する経費等。

【教育費】 小・中学校の環境整備、島外への遠征費の助成及び学校給食費の無償化等。



問 農業・漁業・商業・観光業・育児・学校予算配分は。

答 【民生費】 障がい者や高齢者に対する福祉の充実・子育て支援などに関する経費。

【農林水産業費】 農林水産業の振興を図るための支援や生産基盤整備に関する経費。

【商工費】 2億7984万円となり、商工業や観光振興に関する経費。

【教育費】 学校教育・社会教育の充実、文化・スポーツの振興に関する経費。

※総務費等、予算額の記載がないものはP2を参照。

脱炭素推進事業

問 脱炭素先行地域計画見直しから現在までの進捗状況は。

答

令和7年度事業計画においては、和泊町役場・クリーンセンター・実験農場・城ヶ丘中学校の4施設に太陽光発電設備を導入する計画としていた。

しかしながら、PPA事業者の事業運営上の事情により工事が中断していることから、本年度中の工事完了が困難な状況に変わりはない。

問 2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロにする計画のスケジュールは。

答 再生可能エネルギーの導入にあたっては、自然条件や社会条件等を総合的に整理し、導入を検討する区域と保全を重視する区域を区分けする取り組みを行っている。

これにより、自然と共生した

計画的な導入を進めていく。

将来を担う世代への理解促進を図るため、町内小中学校における環境学習など、普及啓発にも取り組んでいる。

2050年の実質ゼロは長期的な取り組みであるが、公共部門から着実に実行し、その成果を町全体へ段階的に波及させていくことが、本町の基本的なスケジュール。

【脱炭素先行地域事業に関する現状】

1. 脱炭素先行地域事業の進捗状況

令和4年4月26日に脱炭素先行地域に知名町の共同提案者として選定され、PPA事業による公共施設への太陽光発電設備の設置に取り組んでいましたが、本町とPPA契約を締結している株式会社えらぶゆり電力の資金繰りの悪化により、令和7年度事業が中断し、令和8年度事業もPPA事業者の破産により事業を休止中。

2. PPA事業者の破産

株式会社えらぶゆり電力は事業再開に向けて資金調達を行っていましたが、資金繰りの改善が図られず、令和8年2月27日に東京地裁に破産申し立てを行い、令和8年3月2日に破産手続開始決定。

産業発展・児童生徒への支援強化



しまだ ひろき 島田 浩樹 議員

産業振興

**問** 第一次産業の発展に資する今後の取り組みは。

**答** さとうきびについては、ドローンによる農薬散布への助成や、高単収が見込める夏植えへの作型転換を推進。

バレイショについては、種イモ不足の解消に向け、冷蔵貯蔵施設整備を関係機関と連携して取り組んでいく。

花き・球根においては、新品種「咲八姫(さくやひめ)」のドライセル販売の体制構築や、自然災害に強い施設整備の支援。

畜産については、受精卵技術の活用や牛舎の暑熱対策を実施し、高品質な子牛生産を推進していく。

水産業については、操業効率向上のための機器導入支援や、新たに「陸上養殖」の推進による水産物供給体制の強化にも取り組み、漁業経営の安定化を図っていく。

流通支援については、鹿児島・沖縄間の農林水産物の移出、原材料等の移入経費を補助することで流通条件の不利性を改善し、生産振興を促進していく。

今後も本町農業の基本理念に掲げる『複合経営を基本に持続性の高い和泊農業の確立』に向けた取り組みを推進していく。

物価高対策

**問** 児童生徒のスポーツ・文化活動における島外遠征費の取り組みは。

**答** 中学校部活動については、令和4年度に和泊町児童生徒の島外派遣補助に関する規程の見直しを行い、地区大会成績による支援割合の制限を撤廃し、支援対象となる大会の種類や回数等を拡充。現在は、宿泊費を含む旅費の6割を支援し、吹奏楽部等へは楽器運搬費も含めた旅費の6割を支援。

近年の都市部を中心とした宿泊料金の上昇を踏まえ、来年度より宿泊費の上限を8000円に引き上げることとしており、予算も大幅に増額。

スポーツ少年団については、食費は1日1000円、宿泊費は選手1泊5000円・監督1泊7000円、そ

の他船賃・車賃があり、監督10割・選手7割を支援。それ以外に選手のみ強化費として1人1500円を支援。

【本町の現状と課題】

大会参加は、島外参加が多く生徒・保護者の負担が大きい。

少子化の中でも、スポーツ・文化活動に、積極的に励んでいる生徒が多い。和泊町児童生徒島外派遣補助費(6割)、スポーツ少年団島外派遣補助費(7割)、島外派遣補助費に格差があるので、生徒の活躍や保護者の負担軽減の観点から旅費助成割合を7割に統一する検討が必要である。

和泊町第6次総合振興計画に基づき、児童生徒を応援し、将来帰ってきたいと思う施策として新たな基金創設も有効な手段であると考え。

【沖縄県の取り組み】

現行の派遣補助制度を見直して1人当たりの補助額を増額し、保護者の経済的負担軽減を図る目的として、中高生の部活動の大会派遣費補助に関する基金(県部活動大会参加支援基金)を新たに設置。

町民が知って選択できる情報提供を



なかむら 中村 むつ子 議員

ゴミ問題

**問** 生ごみ・ペットボトルの処理問題と対策は。

**答** 生ゴミは水分が多く、多くの火力が必要になり、かなり負担になっている現状。

ペットボトルの処理における問題点としては、ペットボトルを出すときに、キャップとラベルが剥がされてないものがあり、キャップとラベルを外して、中身を簡単に水洗いして出していただけよう周知している。

島の食料自給率

**問** 認識と具体策は。

**答** 「地場産野菜研修会」の開催や「わどまり一坪チャレンジ農園」による自給野菜の栽培促進へ向けた取り組みを行っており、食料自給率の向上を目指し、地産地消に対する町民意識の醸成に努めていく。

新型コロナワクチン

**問** 2020年以降、3回目以降の本町における新型コロナワクチン接種者数は。

**答** 2021年から始まった特例臨時接種で3回目以降の新型コロナワクチン接種者数は、延べ1万1839人となっており、2024年度から定期接種移行後は、延べ373人。

航空運賃

**問** 島外在住の和泊町出身者が葬祭で帰島を対象とした航空運賃の対策は。

**答** 令和7年度より重点新規事業として、「むうるしまちゅんどく故郷旅く補助金」事業を実施している。今後も多くの方にご利用いただけるよう、引き続き周知を実施していく。

町民への行政に関する周知方法

**問** サンサンテレビを利用し、動画で各課の事業やお知らせ、意見募集などのコーナーを制作できないか。

**答** 町の情報を各家庭に届けることがサンサンテレビの大きな役割。これまでも農業や健康増進関係など各課で企画した番組を放送しているので、必要に応じて有線テレビを活用した周知は可能。

請願(陳情)ってなあに?

町民の皆さんから、国や県、町の行政などに対する意見や要望を文章(請願書・陳情書)で町議会に提出すること。

和泊町議会は、請願及び陳情を町民による政策提言と位置づけています。

請願については、紹介議員が必要で、提出された請願書は関係する常任委員会等で審査された後、本会議で採決されます。町だけで対応できない問題は、国などに意見書として送付します。

採択された場合、一般的に議会の意見として各関係機関に意見書の提出や要望することができます。

興味のある方は  
ホームページも  
ご覧ください。→



町民に優しい窓口サービスを



ひがし ひろあき 東 弘明 議員

窓口サービスの向上

**問** 耳が聞こえにくい方の軟骨伝導イヤホンの設置は。

**答** 窓口での聞こえにくさ解消に向け、導入を検討し、窓口サービスの向上に取り組んでいく。

カラス対策

**問** 12月定例会後の進捗状況は。

**答** 捕獲箱では、現在142羽の捕獲数になる。

また、猟友会においては、キジを含む43羽の捕獲状況。猟友会との意見交換会を行

い、計画的な捕獲活動の実施や、猟友会の新規会員の確保へ向けた取り組みのほか、新規捕獲箱の設置要望調査等を行い、農作物被害防止へ向けた捕獲活動に努めていく。

セグロウリミバエ対策

**問** 気温の上がってくる春から、活動が活発化すると考えられるが、対策は。

**答** 国・県による協力の下、トラップ調査や寄主植物調査などを通じて発生状況の把握に努めるとともに、農家や家庭菜園を含む住民に対して、適正な農薬防除、果実や残さの埋設・密封処分などの徹底を呼び掛けている。

また、誘殺数の多いポイントの徹底的な植物除去や誘殺板の設置を重点的に実施している。

## 経済建設常任委員会 所管事務調査 活動報告…その1

- 期 間：令和8年2月13日(金)
- 場 所：公共下水道、農業集落排水、中継・増圧ポンプ場、浄化センター、配水池、水源地、有機物供給センター(し尿処理施設)、後蘭浄水場硬度低減化施設

経済建設常任委員会では、所管事務調査として生活環境課が管理する施設の現地調査を行いました。

本町の上下水道施設は、町民の生活を支える重要なインフラであり、安全な水の供給や衛生的な生活環境の維持に欠かせない役割を担っています。

施設の運用状況や維持管理の現状、老朽化の状況、今後の更新計画などについて、機械設備の更新時期や維持管理費の増加など、将来的な課題についても確認し、持続可

能な施設維持に資するよう引き続き注視していきます。



▲硬度低減化施設の現場確認

# 経済建設常任委員会

## 所管事務調査 活動報告…その2

● 期 間：令和8年1月21日(水)

● 場 所：株式会社 さんゆう たからべ 山有(財部工場 なつき苑)、鹿児島市下水汚泥堆肥化場

経済建設常任委員会では、環境にやさしい循環型農業の取り組みと、本町の課題である下水汚泥処理の活用方法を学ぶため、鹿児島県内の先進事例を視察しました。

### 曾於市・株式会社山有(財部工場 なつき苑)

鹿児島県曾於市にある株式会社山有では、焼酎芋残渣や焼酎廃液、養殖魚の残渣、動物園の糞などの有機性廃棄物を、特許微生物「YM菌」により発酵させ、堆肥として再生する取り組みを行っています。発酵温度は80～100度に達し、病原菌や雑草の種を死滅させることで安全性を確保。約45日で良質な堆肥が完成します。廃棄物を「処理するもの」から「資源」として循環させる発想と、広域から原料を受け入れる体制づくりなど、民間なら

ではの工夫が印象的でした。微生物の力を活かすことで、化学肥料や農薬の使用抑制、土壌環境の改善につながる可能性を実感しました。



▲YM菌による発酵状況の確認



### 鹿児島市下水汚泥堆肥化場

また、鹿児島市の下水汚泥堆肥化場では、下水処理で発生する脱水汚泥を発酵させ、堆肥として有効活用する取り組みを学びました。焼却処分に頼らず、資源として循環させる仕組みを構築しており、堆肥は20kg 200円で販売、小・中学校へは無料配布されています。処理コストの削減や温室効果ガス削減にもつながっているとのことでした。一方で、販路の拡大や施設更新などの課題もあり、継続的な運営には工夫が求められていることも分かりました。

今回の視察を通じて、微生物技術を活用した堆肥化は、環境負荷

の低減と農業振興を両立できる有効な取り組みであると感じました。本町においても、広域連携や民間活力の活用により、資源循環型の仕組みづくりの可能性が広がると考えます。今後も、持続可能なまちづくりに向け、今回の学びを町政に活かしてまいります。

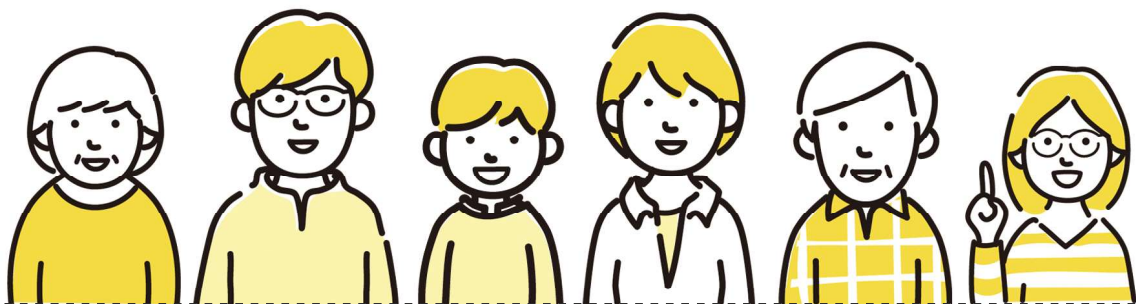


▲下水汚泥堆肥化の現場確認



# 議会を傍聴してみませんか

町の予算や身近な問題について話し合う大切な場で  
**だれでも自由に**  
**見たり、聴いたりできます！**



令和8年第2回議会定例会（予定）

日	月	火	水	木	金	土
6/7	8	9 本会議初日 一般質問 (9:30~)	10 一般質問 (9:30~)	11	12 本会議最終日	13

### 本会議場での傍聴

- 本会議の受付所…役場2階 議場入口
  - ①傍聴者名簿に名前を記入
  - ②一般質問通告書をもらい入場

### テレビでの視聴

- 一般質問の様子をサンサンテレビで生放送(再放送2回あり)

## 編集後記

今定例会において、令和8年度当初予算が決定しました。

町民の声を行政に反映できるよう議会一丸となって、議会活動に尽力します。

議会だよりにおいても読みやすくわかりやすい紙面づくりに努めていきます。

文責／島田 浩樹



委員	副委員	委員	議長	編集責任者	発行責任者
員	員	員	長	長	者
市	中	川	島	野	利
来	村	間	田	野	利
武	む	哲	浩	利	則
次	子	志	樹		

### 今号の表紙



越山頂上のツツジ風景、世之主神社近くの花の郷公園には、ケラマツツジなど数品種の色とりどりの花が植えられています。季節の移ろいを感じ、豊かな時間を過ごすことができる公園です。